

校内研修計画

1. 研究主題

聴き合い、学び合う児童の育成
～「対話」と「協同」のある授業づくりを通して～

2. 主題設定の理由

近年、国際学習到達度調査（PISA）の結果により、日本の子どもたちの学力低下の問題が指摘された。調査結果からは、計算や漢字の書き取りのような基礎技能の領域ではなく、創造的思考力や表現力、科学的思考力や判断力等の領域に課題があることがわかった。このような課題を踏まえ、平成 23 年度より完全実施されている新学習指導要領においては、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得、思考力・判断力・表現力等の育成、主体的に学習に取り組む態度の育成が強調された。それらを育成する観点から、各教科において「言語活動の充実」を図ることが明記され、知識・技能を活用する学習活動の充実、課題解決的な学習や探求的活動を充実させることが重視されている。

言語活動の充実においては、児童同士の対話やコミュニケーションによる「学び合い」が大切だと考える。また、学び手である子ども一人一人が学びの主人公になることで、学ぶ喜びや達成感を味わい、学習意欲の向上や主体的な学習態度につながるものと考え。

本校は、3・4 学年及び 5・6 学年が複式学級のため、以前からガイド学習による複式指導の充実を図ってきた。また、過去 3 年間、研究テーマを「主体的に考え、ともに学び合う子の育成」とし、言語活動を重視した指導を通して研究・実践に取り組んできた。さらに、昨年度は、「学びの共同体」の理念で研究を進め、机配置や学習形態を工夫し、児童同士や児童と教師の対話を大切にした授業づくりに努めた。その結果、児童同士で話し合いながら考えをまとめたり、相手の意見からつながって自分の意見を言ったりできるようになり、成果がみられた。しかし、自分の思いや考えを素直に表現したり、相手の話を最後までしっかり聴いて考えを深めたり、他者との関わりの中から学びを展開させたりすることが十分ではなかった。

そこで、今年度も「学びの共同体」の理念による学習指導を推進し、聴き合い、学び合う児童の育成を目指していきたい。また、日常的な授業公開やミニミニ研究会を行えるような学校体制を構築し、職員の協同体制のもと研究を進めていきたい。

3. 研究仮説

「聴く・つなぐ・もどす・ケアする」を大切に、「対話」と「協同」のある授業づくりを工夫することで、聴き合い、学び合う児童が育つであろう。

4. 研究の方針

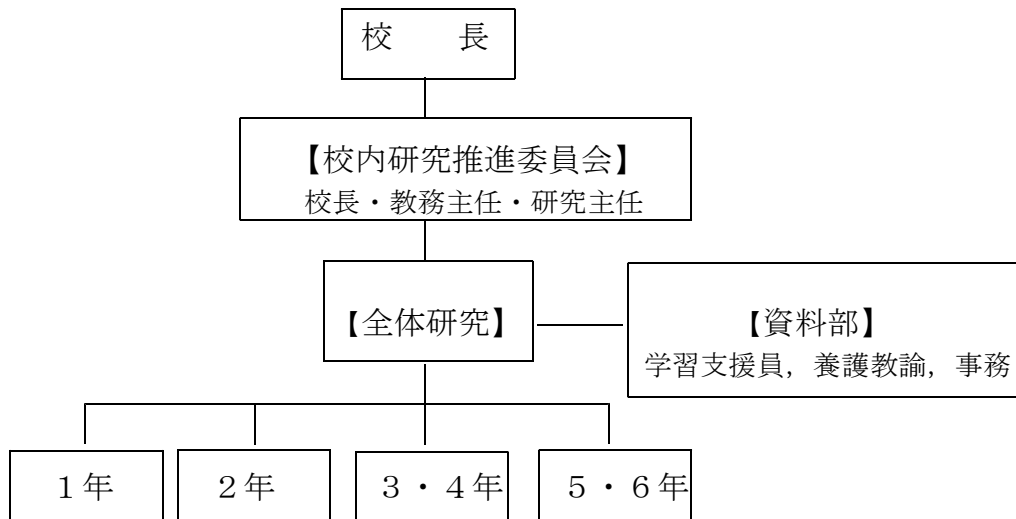
- (1) 学校教育目標及び本年度の重点目標を全職員で共通理解し、目標達成のために研修テーマの実践にあたる。
- (2) 校内研修テーマの実践と学力向上の推進が連動して実践できるようにする。
- (3) 全国学力・学習状況調査や県学力到達度調査等の分析・考察を行い、課題を焦点化し、日々の授業に活かす。
- (4) 同僚性と授業の質を高めるために、授業参観者は必ずアドバイスや授業における気づきを授業者に伝える。

- (5) 授業デザインシートを活用し、すべての教師が年に1回以上、授業研究会を実施する。
- (6) 2ヵ月に1回、「ミニミニ研究会」の時間を設定し、日々の授業の事例を出し合ったり、悩みを共有し合ったりする時間をとる。

5. 研究の内容

- (1) 「学びの共同体」の理念を活かした授業づくり
- (2) ガイド学習による複式指導
- (3) 各教科・領域における「対話」と「協同」のある授業実践
- (4) 聴き合い、学び合いの育ち
- (5) 言語活動の充実を図った授業改善
- (6) 知識・技能を活用する学習指導

6. 研究の組織



7. 校内研修全体構想図

